

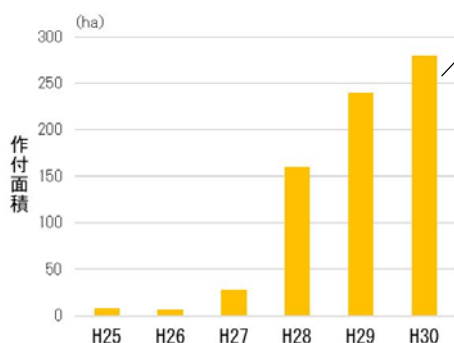
# 大豆の品質向上

活動対象：名寄市智恵文地区 大豆生産者41戸

対象地区では、省力的な大豆の作付面積が増加する一方、汚粒の発生が顕在化していた。そこで、汚粒の発生要因と改善策を整理し、汚粒対策を中心とした基本的な栽培管理に取り組んだ。

その結果、農業者に適期は種の重要性が理解され、土壌処理除草剤の使用及び収穫前の抜き草は定着、収穫高さは概ね適正となり、汚粒割合は低減した。

## 1 課題の背景



経営規模拡大に伴い、大豆の作付面積(新規作付者)が増加



汚粒の発生が顕在化

汚粒を低減するための栽培技術の定着が求められている

## 2 活動の経過

平成30年度  
関係機関と課題を共有  
汚粒の発生要因を整理

汚粒の主な発生要因

成熟の遅れに伴う  
高水分収穫  
雑草の混入  
収穫高さの調整不足

令和元～3年度

ほ場や生育の状況に合わせて  
FAX情報や個別巡回で栽培管理を周知  
(特に太字の3つに取り組んだ)

- ・融雪促進
- ・適期は種
- ・土壌処理除草剤の使用
- ・収穫前の抜き草
- ・子実水分18%以下での収穫
- ・収穫高さの調整

令和2年度  
実態調査  
課題を再整理

令和3年度  
実証ほ設置  
(栽植本数、窒素追肥)  
現地研修会

令和2年度 実態調査の結果を基に、課題及び改善策を再整理

改善策に取り組む一方で



高水分収穫で子実が腐ってしまった...

実態調査の結果を基に課題を再整理、農業者と確認

令和3年産に向けた栽培管理の改善策(汚粒低減対策を含む)

は種時期：地温10度以上で霜害を回避できる時期

栽植本数：20,000本/10a以上を確保

施肥：基肥は、土壌診断結果に基づき施用

窒素追肥は、開花期の根粒着生状況に応じて施用

病虫害防除：わい化病(アブラムシ類)、マメシンクイガを徹底

収穫作業：子実水分18%以下(JA受入基準)

土づくり：有機物の施用、輪作、排水対策、pH矯正

課題が明確になった。  
来年は、栽植本数を  
増やしてみよう！



## 令和3年度 現地研修会を開催

関係機関との打合せで  
現地研修会の開催を提案



FAX情報以外にも、  
情報伝達の機会が必要！



大豆の生育や根粒の着生状況を  
実際に見ながら、栽培のポイントを確認

うちのほ場も根粒を  
確認してみるか

## 3 活動の成果

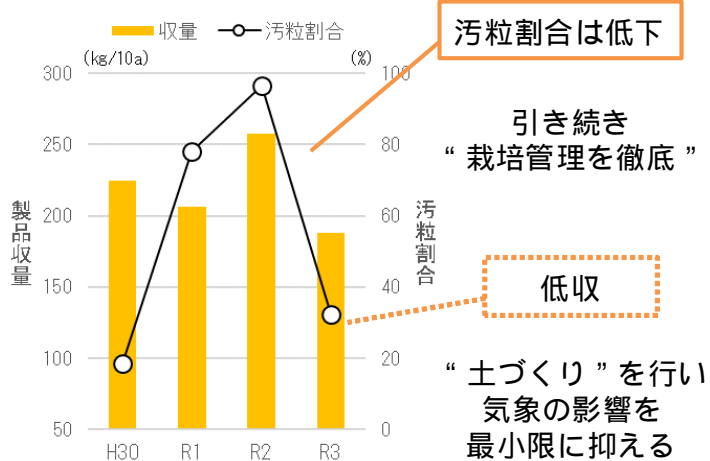
令和3年産 汚粒割合は低下した

**栽培面** 栽培管理の改善

さらに令和3年度は、

**気象面** 成熟が早まった  
開花～成熟の少雨、  
9月上中旬の夜温低下

**体制面** 受入水分を変更（JA）  
収穫の進捗や天候を考慮し、  
臨機応変に対応



栽培管理の改善  
土壌処理除草剤の使用  
使用率は8割以上に！



青く残った株も含め  
抜き草も徹底された

栽培管理の改善  
収穫高さの改善 概ね適正に！

農業者	最下着 莢位置 (cm)	収穫 高さ (cm)	差 (cm)
A	11.8	7.5	4.3
B	12.5	7.4	5.1
C	12.5	6.7	5.9
D	13.1	6.9	6.2
E	14.0	8.9	5.2
F	12.6	9.1	3.5
平均	12.7	7.7	5.0
目安	12.0以上	7~8	5.0以上

収穫高さが適正でも、  
倒伏してしまうと収穫ロスが多い



倒伏させず、9月中に成熟期を迎えるような栽培管理が望ましい

栽培管理の改善 適期は種 降雨や他の作物の植付作業に左右されやすい...  
しかし、適期は種の重要性は理解された

年産	は種作業	
	始	終
H30	5/12	6/ 4
R1	5/11	6/ 5
R2	5/ 9	6/10
R3	5/19	6/17
平年	5/11	5/28

平年は作況平年値（対象  
地域以外も含む）

R2は5月上中旬に降雨  
R3は4月後半と5月後半に降雨

天候に左右されるけど  
5月中には種したい



融雪促進と併せてほ場の排水対策を行い、  
大豆以外の作物でも適期作業ができるように努める

## 4 今後の課題

基本的な栽培管理と土づくりを周知、徹底